

①当日の感想（良かった点）

【当日】

・ 準備の役割分担ができた

→ パネル作り、不足品の買い出し、備品の設置等

・ 空間づくりを来てくれる人と一緒に楽しめた

→ 来てくれる子どもたちと一緒にペイントなどに取り組んだことで、場を与えるだけで終わりにならなかった、子どもたちが自分たちで作り上げたと感じられるものになった

・ 地域の人と交流ができた

→ 来てくれた子どもたちの親御さんと話した、蚕糸公園の利用頻度やイベントにきた理由を聞くきっかけに、感謝を伝えてくれた人も

・ 臨機応変に対応できた

→ 変更前：絵具入りのボールをパネルにあててペイント ⇒ ボールが道に出てしまい汚してしまった

変更後：ボールを投げることをやめる、手形や筆でペイント



②当日の感想（反省点・改善点）

反省点①：汚れ防止の対策が甘かった。

→キャンパスの周辺、服や手足の汚れ防止はできたものの、公園全体や子供たちの行動範囲までを予測し、対策することができず、非常に迷惑をかけてしまった。

改善点：起こり得る全てのトラブルや行動範囲を想定し、ルールの作成や守られた導線確保（キャンパスから水道）をするべきであった。

反省点②：楽しさとルールをしっかり区別できなかった。

→子供と一緒に汚れ、走り回ったことに加え、俯瞰的に現場を監視できなかった。
また、子供にNOと言えず、混沌とした現場になってしまった。→体力消耗

改善点：自分達があくまでも主催者側であることや、盛り上がり先にある目標や目的を忘れない。イベント中の役割分担やタイムスケジュールを細かく作成する。

反省点③：保護者の方々と岡谷の街に関する話を十分にできなかった。

改善点：下調べを十分にすること。

③蚕糸公園の今後の展望

住民の方々による小さなアクションが街全体を変える大きなアクションになるように。蚕糸公園は訪れた人たちが皆が面倒を見合える、学び合える、支え合えるコミュニティとして、住民の居場所としての機能を果たしてほしい。

→今回のイベントは大きなアクションであったが、今後は地元の人たちが家族や友達同士でピクニックをしたり、読書会を開いたり、普段は家の敷地内で門戸を閉じて行うことを蚕糸公園ではオープンなスペースかつオープンな気持ちでやってほしい。そしてその開けた空間を見た他の人たちも巻き込み、街全体のコミュニティを強固なものに変える公園へ。

④パークデザインラボ全体を通して感じた事

・はじめて公園に行ったときは人がいなかったが、今回のイベントには人が沢山来てくれたため、工夫次第だと感じた

→蚕糸公園に人が来る1つのきっかけを作れたのでは
参加した子どもたちにとっては、自由に使える場所として思い出に
見るだけの公園ではなく、使える公園だと伝えられた

・子どもたちなど若い世代も多かった

→子ども向けのイベントがあれば、蚕糸公園も子どもたちでにぎわう場所になることができる